

## 【立位・重心線】

はき 5-92 正しい立位するとき重心線が通る身体部位で誤っているのはどれか。

1. 肩峰
2. 大転子
3. 膝関節後面
4. 外果

はき 6-91 正常立位姿勢するとき矢状面で人体の重心線が通過する部位として誤っているのはどれか。

1. 乳様突起付近
2. 第2仙椎の少し前方
3. 股関節の前方
4. 膝関節の前方

## 【歩行】

はき 1-90 正常歩行の周期について誤っているのはどれか。

1. 歩行周期には立脚期と遊脚期とがある。
2. 立脚中期には全体重が一方の足にかかる。
3. 立脚期と遊脚期の時間的割合は6対4である。
4. 両足が遊脚期になる時がある。

はき 4-90 歩行周期の遊脚相に含まれるのはどれか。

1. 踵接地
2. 足底接地
3. 加速期
4. 踏み切り

はき 6-92 歩行について誤っている記述はどれか。

1. 1サイクルは2歩に相当する。
2. 二重支持期がない場合は走行となる。
3. 重心の軌跡はサインカーブを描く。
4. バランスの悪い人は歩隔が狭くなる。

はき 7-91 効率の良い歩き方の特徴はどれか。

1. 立脚中期で膝関節は屈曲しない。
2. 重心は水平に移動する。
3. 骨盤は左右に移動する。
4. 骨盤は回旋しない。

はき 8-91 正常歩行において遊脚期に活動がみられない筋はどれか。

1. 前脛骨筋
2. ヒラメ筋
3. 大腿四頭筋
4. 腸腰筋

はき 9-91 正常歩行周期について誤っている記述はどれか。

1. 立脚期と遊脚期の比率は6対4である。
2. 重心が最も低くなるのは立脚中期である。
3. 骨盤の回旋は重心の上下動を小さくする。
4. 一側の膝関節は屈曲と伸展をそれぞれ2回行う。

はき 11-92 歩行時の重心移動を滑らかにする身体の仕組みで誤っている記述はどれか。

1. 立脚中期に膝関節が屈曲する。
2. 遊脚側の骨盤が前方に回旋する。
3. 骨盤が立脚側に側方移動する。
4. 遊脚側の骨盤が挙上する。

はき 12-91 正常歩行の立脚中期から後期にかけて強く収縮する筋はどれか。

1. 大腿四頭筋
2. ハムストリングス
3. 前脛骨筋
4. 下腿三頭筋

はき 15-89 歩行周期の踵接地時に筋活動を認める筋はどれか。

1. 大殿筋
2. 前脛骨筋
3. ヒラメ筋
4. 大内転筋

はき 16-89 正常歩行周期において二重支持期の割合として正しいのはどれか。

1. 60%
2. 40%
3. 20%
4. 5%

はき 17-87 歩幅が一定のまま歩行率（ケイデンス）が増加したときの正しい記述はどれか。

1. 歩隔が小さくなる。
2. 歩行速度が上がる。
3. 1歩行周期の時間が長くなる。
4. 歩行周期における二重支持期の割合は変化しない。

はき 24-82 正常歩行について正しいのはどれか。

1. 歩行速度が遅くなると二重支持期は短くなる。
2. 1歩行周期に一侧の膝関節は2回屈曲する。
3. 一侧の踵接地からつま先離れまでを1歩という。
4. 一侧の踵と他側のつま先との間の距離を歩隔という。

はき 28-82 正常歩行のサイクルで正しいのはどれか。

1. 立脚中期に全足接地をする。
2. 二重支持期は40%である。
3. 立脚相で膝関節は1回屈曲する。
4. 遊脚相が立脚相より時間が長い。

### 【異常歩行】

はき 3-92 異常歩行について正しい記述はどれか。

1. 脚長差が3cm以内であれば異常は目立たない。
2. 疼痛性跛行では患側の立脚相の時間が長くなる。
3. 脳卒中片麻痺では足の内側から接地する。
4. 小さざみ歩行は筋ジストロフィー症にみられる。

はき 4-91 異常歩行と原因の組合せで誤っているのはどれか。

1. 酩酊歩行 — 小脳疾患
2. 小刻み歩行 — パーキンソン病
3. アヒル歩行 — 筋ジストロフィー
4. 鶏歩 — 股関節脱臼

はき 5-93 トレンデレンブルグ歩行の原因となる筋はどれか。

1. 中殿筋
2. 大殿筋
3. 大腿四頭筋
4. 前脛骨筋

はき 21-88 異常歩行とその原因疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. 小刻み歩行 ————— パーキンソン病
2. トレンデレンブルグ歩行 ————— 変形性膝関節症
3. 失調性歩行 ————— 脊髄損傷
4. 瘻性歩行 ————— ギラン・バレー症候群

## 【立位・重心線】

あ 7-100 立位姿勢が安定する要因で正しい記述はどれか。

1. 重心の位置が高い。
2. 支持面が狭い。
3. 重心線が支持面に落ちる。
4. 体重が軽い。

あ 10-100 立位時に生理的にみられないのはどれか。

1. 頸椎前弯
2. 腰椎後弯
3. 膝関節外反
4. 足のアーチ

あ 14-99 健常成人の立位姿勢で側方からみて重心線が通らないのはどれか。

1. 耳 垂
2. 胸 骨
3. 大転子
4. 膝関節前面

あ 21-96 正常立位姿勢で重心線が通る部位として正しいのはどれか。

1. 第3頸椎
2. 第3胸椎
3. 第7胸椎
4. 第5腰椎

## 【歩行】

あ 2-100 歩行について正しい記述はどれか。

1. 踏み切りとは踵が床を離れた時をいう。
2. 立脚中期とは全体重がその足に乗っている時をいう。
3. 立脚期と遊脚期との時間の割合は5対5である。
4. 正常歩行には二重支持作用はない。

あ 6-100 正常の歩行周期で踵接地の次にくるのはどれか。

1. 足底接地
2. 踵離れ
3. つま先離れ
4. 遊脚期

あ 14-100 正常歩行の立脚中期にみられないのはどれか。

1. 骨盤の傾斜
2. 膝関節屈曲
3. 足関節屈曲（底屈）
4. 下腿三頭筋の収縮

あ 18-96 正常歩行における右足の踵接地時の説明として誤っている記述はどれか。

1. 左股関節は屈曲位にある。
2. 右前脛骨筋が活動している。
3. 骨盤は右側が前方に回旋している。
4. 歩行周期において二重支持期にある。

【異常歩行】

あ 1-103 歩行訓練について正しいのはどれか。

1. 歩行訓練はT字杖使用から始める。
2. 補装具は使わない。
3. 患側下肢の力が不十分な時は膝折れに注意する。
4. 弛緩性麻痺の方が痙性麻痺よりも体重支持に有利である。

あ 1-102 異常歩行で誤っているのはどれか。

1. 痙性麻痺では内反尖足になりやすい。
2. 失調性歩行では両足を広げる傾向がある。
3. 片麻痺では分回し歩行がみられる。
4. パーキンソン症候群では歩幅が大きい。

あ 2-98 疾患と歩行との組合せで正しいのはどれか。

1. 脳血管障害 ————— 大また歩行
2. 小脳性失調 ————— トレンデレンブルグ歩行
3. パーキンソン病 ————— すくみ足歩行
4. 筋ジストロフィー ————— よろめき歩行

あ 5-97 疾患と歩行との組合せで誤っているのはどれか。

1. パーキンソン病 ————— こきざみ歩行
2. 脳性麻痺 ————— アヒル歩行
3. 小脳性失調 ————— よろめき歩行
4. 脳卒中 ————— 分回し歩行

あ 9-101 異常歩行について正しい組合せはどれか。

1. 分回し歩行 ————— 小脳性失調
2. こきざみ歩行 ————— パーキンソン病
3. はさみ足歩行 ————— 進行性筋ジストロフィー症
4. トレンデレンブルグ歩行 ————— 脊髄損傷

あ 13-102 鶏歩がみられるのはどれか。

1. パーキンソン病
2. 筋ジストロフィー症
3. 膝前十字靭帯損傷
4. 総腓骨神経麻痺

あ 15-97 突進歩行がみられるのはどれか。

1. パーキンソン病
2. 先天性股関節脱臼
3. 腰椎椎間板ヘルニア
4. 進行性筋ジストロフィー

あ 17-95 異常歩行とその原因との組合せで誤っているのはどれか。

1. 墜落跛行 ————— 脚長差
2. 間欠跛行 ————— 閉塞性動脈硬化症
3. 大殿筋歩行 ————— 筋ジストロフィー症
4. はさみ足歩行 ———— 大腿四頭筋筋力低下

あ 24-83 脳卒中片麻痺の特徴的な異常歩行はどれか。

1. 分回し歩行
2. あひる歩行
3. 小刻み歩行
4. 墜落性破行

あ 27-83 異常歩行と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. 鶏歩 ————— 筋ジストロフィー
2. 小刻み歩行 ————— 変形性股関節症
3. 失調性歩行 ————— 小脳梗塞
4. トレンデレンブルグ歩行 ———— パーキンソン病

## 【立位・重心線】

はき 5-92 正しい立位するとき重心線が通る身体部位で誤っているのはどれか。

1. 肩峰
2. 大転子
3. 膝関節後面
4. 外果

はき 6-91 正常立位姿勢するとき矢状面で人体の重心線が通過する部位として誤っているのはどれか。

1. 乳様突起付近
2. 第2仙椎の少し前方
3. 股関節の前方
4. 膝関節の前方

## 【歩行】

はき 1-90 正常歩行の周期について誤っているのはどれか。

1. 歩行周期には立脚期と遊脚期とがある。
2. 立脚中期には全体重が一方の足にかかる。
3. 立脚期と遊脚期の時間的割合は6対4である。
4. 両足が遊脚期になる時がある。

はき 4-90 歩行周期の遊脚相に含まれるのはどれか。

1. 踵接地
2. 足底接地
3. 加速期
4. 踏み切り

はき 6-92 歩行について誤っている記述はどれか。

1. 1サイクルは2歩に相当する。
2. 二重支持期がない場合は走行となる。
3. 重心の軌跡はサインカーブを描く。
4. バランスの悪い人は歩隔が狭くなる。

はき 7-91 効率の良い歩き方の特徴はどれか。

1. 立脚中期で膝関節は屈曲しない。
2. 重心は水平に移動する。
3. 骨盤は左右に移動する。
4. 骨盤は回旋しない。

はき 8-91 正常歩行において遊脚期に活動がみられない筋はどれか。

1. 前脛骨筋
2. ヒラメ筋
3. 大腿四頭筋
4. 腸腰筋

はき 9-91 正常歩行周期について誤っている記述はどれか。

1. 立脚期と遊脚期の比率は6対4である。
2. 重心が最も低くなるのは立脚中期である。
3. 骨盤の回旋は重心の上下動を小さくする。
4. 一側の膝関節は屈曲と伸展をそれぞれ2回行う。

はき 11-92 歩行時の重心移動を滑らかにする身体の仕組みで誤っている記述はどれか。

1. 立脚中期に膝関節が屈曲する。
2. 遊脚側の骨盤が前方に回旋する。
3. 骨盤が立脚側に側方移動する。
4. 遊脚側の骨盤が挙上する。

はき 12-91 正常歩行の立脚中期から後期にかけて強く収縮する筋はどれか。

1. 大腿四頭筋
2. ハムストリングス
3. 前脛骨筋
4. 下腿三頭筋

はき 15-89 歩行周期の踵接地時に筋活動を認める筋はどれか。

1. 大殿筋
2. 前脛骨筋
3. ヒラメ筋
4. 大内転筋

はき 16-89 正常歩行周期において二重支持期の割合として正しいのはどれか。

1. 60%
2. 40%
3. 20%
4. 5%

はき 17-87 歩幅が一定のまま歩行率（ケイデンス）が増加したときの正しい記述はどれか。

1. 歩隔が小さくなる。
2. 歩行速度が上がる。
3. 1歩行周期の時間が長くなる。
4. 歩行周期における二重支持期の割合は変化しない。



はき 24-82 正常歩行について正しいのはどれか。

1. 歩行速度が遅くなると二重支持期は短くなる。
2. 1歩行周期に一側の膝関節は2回屈曲する。
3. 一側の踵接地からつま先離れまでを1歩という。
4. 一側の踵と他側のつま先との間の距離を歩隔という。

はき 28-82 正常歩行のサイクルで正しいのはどれか。

1. 立脚中期に全足接地をする。
2. 二重支持期は40%である。
3. 立脚相で膝関節は1回屈曲する。
4. 遊脚相が立脚相より時間が長い。

### 【異常歩行】

はき 3-92 異常歩行について正しい記述はどれか。

1. 脚長差が3cm以内であれば異常は目立たない。
2. 疼痛性跛行では患側の立脚相の時間が長くなる。
3. 脳卒中片麻痺では足の内側から接地する。
4. 小きざみ歩行は筋ジストロフィー症にみられる。

はき 4-91 異常歩行と原因の組合せで誤っているのはどれか。

1. 酩酊歩行 — 小脳疾患
2. 小刻み歩行 — パーキンソン病
3. アヒル歩行 — 筋ジストロフィー
4. 鶏歩 — 股関節脱臼

はき 5-93 トレンデレンブルグ歩行の原因となる筋はどれか。

1. 中殿筋
2. 大殿筋
3. 大腿四頭筋
4. 前脛骨筋

はき 21-88 異常歩行とその原因疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. 小刻み歩行 ————— パーキンソン病
2. トレンデレンブルグ歩行 ————— 変形性膝関節症
3. 失調性歩行 ————— 脊髄損傷
4. 瘻性歩行 ————— ギラン・バレー症候群

## 【立位・重心線】

あ 7-100 立位姿勢が安定する要因で正しい記述はどれか。

1. 重心の位置が高い。
2. 支持面が狭い。
3. 重心線が支持面に落ちる。
4. 体重が軽い。

あ 10-100 立位時に生理的にみられないのはどれか。

1. 頸椎前弯
2. 腰椎後弯
3. 膝関節外反
4. 足のアーチ

あ 14-99 健常成人の立位姿勢で側方からみて重心線が通らないのはどれか。

1. 耳垂
2. 胸骨
3. 大転子
4. 膝関節前面

あ 21-96 正常立位姿勢で重心線が通る部位として正しいのはどれか。

1. 第3頸椎
2. 第3胸椎
3. 第7胸椎
4. 第5腰椎

## 【歩行】

あ 2-100 歩行について正しい記述はどれか。

1. 踏み切りとは踵が床を離れた時をいう。
2. 立脚中期とは全体重がその足に乗っている時をいう。
3. 立脚期と遊脚期との時間の割合は5対5である。
4. 正常歩行には二重支持作用はない。

あ 6-100 正常の歩行周期で踵接地の次にくるのはどれか。

1. 足底接地
2. 踵離れ
3. つま先離れ
4. 遊脚期

あ 14-100 正常歩行の立脚中期にみられないのはどれか。

1. 骨盤の傾斜
2. 膝関節屈曲
3. 足関節屈曲（底屈）
4. 下腿三頭筋の収縮

あ 18-96 正常歩行における右足の踵接地時の説明として誤っている記述はどれか。

1. 左股関節は屈曲位にある。
2. 右前脛骨筋が活動している。
3. 骨盤は右側が前方に回旋している。
4. 歩行周期において二重支持期にある。

【異常歩行】

あ 1-103 歩行訓練について正しいのはどれか。

1. 歩行訓練はT字杖使用から始める。
2. 補装具は使わない。
3. 患側下肢の力が不十分な時は膝折れに注意する。
4. 弛緩性麻痺の方が痙性麻痺よりも体重支持に有利である。

あ 1-102 異常歩行で誤っているのはどれか。

1. 痙性麻痺では内反尖足になりやすい。
2. 失調性歩行では両足を広げる傾向がある。
3. 片麻痺では分回し歩行がみられる。
4. パーキンソン症候群では歩幅が大きい。

あ 2-98 疾患と歩行との組合せで正しいのはどれか。

1. 脳血管障害 ————— 大また歩行
2. 小脳性失調 ————— トレンデレンブルグ歩行
3. パーキンソン病 ————— すくみ足歩行
4. 筋ジストロフィー ————— よろめき歩行

あ 5-97 疾患と歩行との組合せで誤っているのはどれか。

1. パーキンソン病 ————— こきざみ歩行
2. 脳性麻痺 ————— アヒル歩行
3. 小脳性失調 ————— よろめき歩行
4. 脳卒中 ————— 分回し歩行

あ 9-101 異常歩行について正しい組合せはどれか。

1. 分回し歩行 ————— 小脳性失調
2. 小きざみ歩行 ————— パーキンソン病
3. はさみ足歩行 ————— 進行性筋ジストロフィー症
4. トレンデレンブルグ歩行 ————— 脊髄損傷

あ 13-102 鶏歩がみられるのはどれか。

1. パーキンソン病
2. 筋ジストロフィー症
3. 膝前十字靭帯損傷
4. 総腓骨神経麻痺

あ 15-97 突進歩行がみられるのはどれか。

1. パーキンソン病
2. 先天性股関節脱臼
3. 腰椎椎間板ヘルニア
4. 進行性筋ジストロフィー

あ 17-95 異常歩行とその原因との組合せで誤っているのはどれか。

1. 墜落跛行 ————— 脚長差
2. 間欠跛行 ————— 閉塞性動脈硬化症
3. 大殿筋歩行 ————— 筋ジストロフィー症
4. はさみ足歩行 ———— 大腿四頭筋筋力低下

あ 24-83 脳卒中片麻痺の特徴的な異常歩行はどれか。

1. 分回し歩行
2. あひる歩行
3. 小刻み歩行
4. 墜落性破行

あ 27-83 異常歩行と疾患の組合せで正しいのはどれか。

1. 鶏歩 ————— 筋ジストロフィー
2. 小刻み歩行 ————— 変形性股関節症
3. 失調性歩行 ————— 小脳梗塞
4. トレンデレンブルグ歩行 ————— パーキンソン病